

## 新発田市 令和 2 年度 第 5 回定例記者会見

1 日 時 令和 2 年 9 月 2 日（水）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

○緊急経済対策第 7 弾

① インフルエンザ予防接種助成

② 今・得キャンペーンプラス ～しばたのおみやげセット～について

○新成人に商品券を贈呈 & 市公式 LINE を開設

○新潟アルビレックス BB VS 千葉ジェッツプレシーズンゲーム 市長表敬訪問

○富樫勇樹選手バスケットボールクリニック

○新発田市総合防災訓練

○パラスポーツ出前講座

○小学校防災キャンプ

○在住外国人防災セミナー

○SDGs から考える協働の地域づくりセミナー

○ウォーキングチームチャレンジ

○江戸時代の旅と行列

### あいさつ

○定例記者会見の開催は久しぶりです。新方コロナの関係ですが、第 7 弾緊急経済対策を用意し、後ほど発表させていただきます。

○第 2 波が来るということで、秋に備えよと国からの予報いただいています。対策に万全を期したいと思います。近隣では感染者が出ていますが、新発田市は発生していない状況でありがたいです。これも、市民の皆さんがしっかり管理をされているおかげです。

○8 月上旬には、濃厚接触のために PCR 検査を受ける市民がいつもより多い日があり、人事を尽くして天命を待つしかできないのですが、退庁後に自宅裏にある菅谷のお不動様にすがる思いで参拝してきました。翌日、全員陰性との報告があり、ほっとしたということがありました。

○まさにコロナ対策だけは、薄氷を踏むような思いでいますが、しっかり対応をしたいと思っています。

- 会見項目の発表の前に、臨時議会での蔵春閣の件について、市民の皆さんにご心配をお掛けしたので、少しお話しさせていただきます。
- 時系列でお話しすると、議会に昨年、全体計画の元になる実施計画の予算をあげさせてもらっています。議会との約束では、その実施計画案が3月末にはできるだろうと話をしていました。
- 大成建設と折衝をし、今年3月末には実施計画案を提出いただきました。その案を市の建築課で精査作業に入りましたが、コロナ禍で大成建設が休業となり、あるいはリモートで対応することになるなど、思うようなスピード感が出なかったということであります。
- 結果として、5月20日のまちづくり戦略会議で案の了承を得たということになります。議会との約束が遅くなったにも関わらず、その間、議会に報告をしていなかったことについて、丁寧さを欠いてしまいました。しかし、5月25日には、継続審査になっている蔵春閣について、委員会を開催してほしいとの要請をしましたが、6月5日に、同12日午前9時から総務常任委員会で審査をするということになりました。
- 執行部のシナリオでは、25日に申し入れを行い、6月議会の前に議員各位に全体計画を発表し、6月5日の本会議で実施計画に係る予算について報告をするというものでした。しかし、シナリオどおりにいかず、議会の皆さんにはご心配をいただいたというものです。
- 事務方のトップである副市長と担当課長に注意し、副市長から総務常任委員会上で陳謝をしたということです。委員からは、蔵春閣の予算が1億6千万円では高いということでしたので、全議員が高いというのであれば、議案を取下げようということで撤回させてもらいました。
- その後、3回ほど総務常任委員会が開催され、その過程で付帯施設はともかくとして、本体施設は残すべきではないかとの声があったと聞いていますので、今回、約4千万円の予算を改めて計上させてもらいました。
- 総括質疑では、1億6千万円を今一度、再提案すべきとの意見が議会からあったということも事実ですが、まずは施設本体の約4千万円の部分だけは、しっかりと審議してもらいたいということにさせてもらいました。

○丁寧さを欠いたことについて、議会には申し訳なくおもっているところです。ただ、蔵春閣の持っている美術価値、文化性の高さは濁りのないものですので、しっかりと次世代に残していきたいと思っています。

**それでは、会見項目を説明いたします。**

**初めに、「緊急経済対策第7弾」について**

**一つ目は、インフルエンザ予防接種費用の助成について**

○全市民を対象とした予防接種を実施します。これまで医師会と協議・調整を重ね、ワクチンの確保などに向けて準備作業を進めてきたが、国の方向性も示され、ようやく、新発田市として実現に向け、9月議会の<sup>なかび</sup>中日辺りで予算案を上程できる見通しとなりました。

○特に、重症化しやすい高齢者の方などを中心に、積極的に接種を呼び掛けていきたいと思っています。助成対象は全市民とし、助成金額については、全市民に対しワクチン代相当額を助成することとし、具体的には65歳以上は実質無料、64歳以下はワクチン代相当額を助成します。助成期間は、10月1日から年内までを一つの期限とします。

○新型コロナウイルス感染症との同時流行を防ぐため、早めの接種をお勧めするとともに、ワクチンの流通状況によっては、助成期間も調整したいと考えています。接種場所については、市内指定医療機関に加え、市外の医療機関で接種した場合も対象とします。

**次に、緊急経済対策「新発田市地域食品消費回復支援事業」～しばたのおみやげセット～について**

○コロナ禍に伴い、イベントや各種催しの中止により、新発田市で生産、製造される食料品（お菓子、加工品、生鮮品）の消費が落ち込んでいると聞いています。

○このことから、既に、「今得キャンペーンプラス」として予算を計上していた事業について、国のGO TOキャンペーンの活用と合わせて、月岡温泉

をはじめ、市内で宿泊する観光客を対象として、今・得プレミアム商品券専門券と特産品がもらえる土産品購入券を発行し、さらなる誘客を進めるとともに、新発田市の逸品を PR することで、消費喚起に役立てたいと思っています。

○実施時期は、観光客については、国の GO TO キャンペーンを利用してもらい、月岡温泉では 9 月 1 日から 11 月 30 日、月岡温泉以外の市内旅館・ホテルでは 10 月 1 日から 11 月 30 日とし、3 千円分の「今・得プレミアム商品券専門券」と 3 千円相当の「土産品購入券付き宿泊プラン」を販売してもらうものです。

○購入してもらう土産セットは 3 種類で、「城下町しばたの銘菓セット 3 千円」「おうちごはんのおともセット 4 千円」「とろける極上ブランド肉セット 5 千円」です。

○土産品購入券は 3 千円相当のため、不足分は購入の際に支払っていただく。引換場所は、あえて、寺町たまり駅とし、月岡温泉からの市街地回遊にも結び付けたいと思っています。

○なお、特産品セットについては、本日、新発田市産業連携推進委員会の金子委員長と寺町たまり駅の渡辺委員にお出でいただいています。後ほど、詳細に説明していただきます。なお、セット内容は、事業者の皆さんのご希望や供給状況にあわせて、臨機応変に変更してまいります。

○また、10 月 1 日から、市民向けの販売も実施したい。市民にも我がまちの逸品・特産品への理解を深めてもらうとともに、新発田市のコロナ対策は「オールしばた」で取り組んできています。市民の皆さんにも消費喚起に向けて、購買活動にぜひとも参画をいただきたいと思っています。

○なお、今回の取組によって、市内でしか購入できない、逸品・特産品としてブランド化を目指しており、「城下町しばたの銘菓セット」、「おうちごはんのおともセット」、「とろける極上ブランド肉セット」などが、将来的にふるさと納税返礼品や通信販売に結びつくよう、見据えて事業を展開してまいります。

## 次に、「新成人に商品券を贈呈」並びに「新発田市公式 LINE の開設」について

- 9月21日に延期開催を予定していた成人式は、コロナウイルス第2波の状況を踏まえ、新成人代表などで構成する実行委員会のメンバー自ら、市民の皆さんの安全・安心を最優先に考え、中止を決断されました。成人を迎え、それを皆で祝う成人式に出席することは、生涯で一度きりのことです。きっと断腸の思いだったと思うし、私も同じ想いです。
- 一方で、新発田の若者たちの英断を、市長としてはとても頼もしく感じています。9月1日号の広報しばたに、私の気持ちを込めたメッセージを掲載し、「新発田市民の皆さんが、あなた達を応援している」気持ちを伝えるため、新成人にお祝いの商品券を贈ります。
- 商品券は新成人本人のだけでなく、ご家族など代理の方でも、名簿で確認ができればみらい創造課でお渡しする。商品券を使い、成人を記念した写真を撮ったり、記念の品を購入したり、家族や友人と思い出を語り合いながら食事をするなど、ぜひともご利用いただきたいと考えています。
- また、誰も経験したことの無いコロナ禍の今、難局に屈することなく「コロナウイルスに負けてたまるか！」を旗印に、遠く離れて暮らしていてもふるさと新発田とのつながりを強め、想いを深められるよう、市公式<sup>ライン</sup>LINE「しばた<sup>トゥモロー</sup>TOMORROWライン」を新たに開設しました。QRコードを皆さんにも配付したので、記者の方もぜひ登録していただけると有難いです。
- ふるさととつながるネットワークツールとして、新発田の近況やイベント情報の配信だけでなく、首都圏で市公式<sup>ライン</sup>LINE「しばた<sup>トゥモロー</sup>TOMORROWライン」につながる飲食店を利用すると、新発田の特産品が当たるキャンペーンなどを実施するなど、新発田に所縁のある人も無い人も、登録者が楽しみながら新発田を知る、新発田に興味を持ってもらえるよう工夫するとともに、市内民間企業が既に開設している<sup>ライン</sup>LINEとつながることで、市だけでは実現できない多くの皆さんに発信していきたいと考えています。
- 新型コロナウイルスの影響で、テレワークが急速に広がっています。都市部で学生を除くバイト、パート、契約社員に対する民間調査では、約6割が地方移住に興味があり、自然の多い環境で生活したいと回答しています。

○この機を好機として捉え、市公式LINE「しばたTOMORROWライン」を活用して、新たな出会いへとつなげたいと考えています。

## **次に、「新潟アルビレックス BB 対 千葉ジェッツ 富樫勇樹選手の凱旋試合に伴う市長表敬訪問」と「富樫勇樹選手によるバスケットボールクリニック」について**

○いよいよ9月19日（土）・20日（日）、カルチャーセンターで当市出身のバスケット界のスーパースター富樫勇樹選手の凱旋試合を開催します。

○国の新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインに沿って、入場者数は定員の50%以内に抑えますが、2日間の開催とし、当初予定人数は何とか確保できました。しかし、試合の醍醐味の一つである歓声や鳴り物は控えなければならないなど厳しい制約の中での試合となります。

○やはりスーパースターの集客力は見事です。8月21日号の広報しばたでチケット販売を告知以来、毎日、チケット購入の問い合わせが来ている状況です。今日時点では、ほぼ完売に近い状況だと聞いています。

○市民の皆さんにとっては、久しぶりのビッグイベントです。制約の中でも、スポーツ特有の魅力を肌で感じ取ってもらい、気持ちを解放して大いに楽しんでもらい、大いに元気になってほしいです。

○また、9月18日（金）午後3時には、Bリーグチェアマンに就任した千葉ジェッツの前会長の島田慎二さんをはじめ、新潟アルビレックス BB、千葉ジェッツの両球団関係者だけでなく、両チームから富樫勇樹選手、五十嵐圭選手が来られます。

○凱旋試合開催に尽力いただいた方々にお会いできるのは、とても楽しみです。出席者への取材時間も設定していますので、報道各社の取材により、凱旋試合を大いに盛り上げてほしいと思っています。

○そして、何よりもここが一番大切なところです。2日目の20日（日）、新潟市のスポーツ大使でもある富樫選手に加え、千葉ジェッツの選手によるクリニックを開催します。対象は、市内ミニバスチームの小学6年生の約50人です。

- 日本を代表するスター選手たちに指導してもらうだけでなく、憧れの富樫先輩が間近にいるとなれば、子ども達の喜びは計り知れません。コロナ禍で我慢続きだった子ども達に大いにうっ憤を晴らし、心から楽しんで欲しいし、生き生きとした姿をカメラに収めてほしいと思います。
- なお、表敬訪問とクリニックの取材を希望される場合は、密の防止のため、9月11日（金）午後5時までに電話での事前申込をお願いします。

## **次に、令和2年度の新発田市総合防災訓練の開催について**

- 7月末の豪雨では、当市でもサンスポーツランドへの通路や新発田駅前のエレベーターなどに被害が発生しました。市内16地区に対し、平成18年以來となる避難勧告を発令しました。26か所の避難所を開設しましたが、お陰様で人的被害は全くありませんでした。しかし、地域住民との日々の連携体制の構築や防災関係機関、団体、民間事業者との協力体制構築の重要性を改めて実感したところです。
- 令和2年度の新発田市総合防災訓練は、10月4日（日）午前9時から御免町小学校、南公園で開催します。新型コロナウイルス感染防止という新たな視点も含め、訓練参加総勢28機関・団体の大々的な訓練になります。
- 新潟県下越地域楡形山地を震源とするマグニチュード6.8の地震発生に伴い、新発田市で震度6強を観測したことを想定します。新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた「避難所などの開設や運営訓練」、「情報伝達・受け入れ訓練」などの初動対応から、倒壊家屋・座屈ビルからの救出・救助訓練に加え、消火へりによる救出も含めた救助訓練などを実施します。
- 自衛隊、国土交通省北陸整備局、県警本部、県立新発田病院、新発田地域広域消防、新発田市消防団、新発田郵便局、新発田ガス株式会社、東北電力ネットワーク株式会社、株式会社N T T、株式会社ウオロクホールディングス、新発田市ハイヤー・タクシー協会など、国・県・市・民間団体に加え、地域住民代表として御免町小学校区町内会の皆さんにより、災害時の初動対応から災害現場対応まで実践しながらに訓練します。

○「備えあれば憂いなし」の言葉通り、市民と共にしっかりと備えられる訓練としていきたい。

このほかの情報は、資料に記載のとおりです。

○先日、産経新聞に大東建託が「住み心地のいい街ランキング」を発表した記事がありました。新潟県内1位は新潟市西区で、甲信越3県の中でトップの山梨県昭和町に次ぐ2位入ったとのこと。4位まではいずれも前年同順位で、2位が江南区、3位が中央区、4位が東区でありました。

○そして、前年の7位から3ランク上がって、5位に新発田市を選んでいただきました。将来都市像に住みよいまち日本一を掲げる中で、住み心地のいい街ランキングが新潟市に次いで上位にランクされたのは、大変良い兆しです。

○コロナウイルス禍だからこそ見えてくる、感じられる街の良さがあるはずです。引き続き市民の命と生活をしっかりと守りながら、新発田市に住み続けたいと思っていただけるよう努力していきたいと思っています。

○報道各社の皆様においては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただくようお願いします。